

- ② かなちゃん手形の助成金額を拡大
- ③ 感震ブレーカーを有償配布
- ④-⑤ **特集 厚木とアユ**
未来につなぐ「厚木の鮎」
- ⑥-⑧ 街の話題/コラム/お知らせ

デジタル広報配信 アプリは「マチイロ」 ネットは「マイ広報紙」



6月4～10日 歯と口の健康週間

正しい知識と対策で虫歯を予防しましょう。

《虫歯を防ぐポイント》

- ・ 歯ブラシは年齢に合う大きさの物を使う
- ・ 「食べたら磨く」が基本。歯茎にもブラシが当たるように磨き、歯間ブラシなども使う
- ・ 食事の際はよくかみ、柔らかい物だけでなく、かみ応えのある物を食べる
- ・ 歯科医院などでの定期的な健診やクリーニングを受ける

健康医療課 ☎25-2174

市では、成人歯科健康診査や、誰でも受けられる歯磨き・口の悩み相談など、健康に保つための環境を整えています。6月4～10日は歯と口の健康週間です。いつまでも健やかに暮らすために、歯や口の健康を考えてみませんか。

「しっかり磨かないと虫歯になっちゃうよ」「きれいになったかな」。鏡の前で肩を並べて歯を磨く子どもたち。食後の歯磨きは、欠かせない日課です。

楽しい食事や会話、体を使った趣味や運動など、私たちの何げない生活を歯と口の健康が支えています。いつまでも丈夫に保つには、定期的な健診が大切。歯科医の青木誠司さん(54)は「食後は、歯ブラシや歯間の汚れを取るデンタルフロスを使ったセルフケアが虫歯予防につながる。歯や口の不調は全身の健康にも影響するので、違和感や痛みを感じた時は早めに歯科医院を受診してほしい」と呼びかけます。

Q Zoom Up

高齢者の外出を後押し

かなちゃん手形の助成金額を拡大

「かなちゃん手形」は、1回100円で神奈中バスに乗れる割引券です。市では昨年12月、高齢者の外出を後押しできるような6カ月券の購入費助成を拡大しました。気軽に外出できる環境をさらに充実させるため、6月から1年券の助成費用も拡大します。

年齢を重ねると、体の衰えなどで自宅にこもりがちになります。外に出て体を動かし会話をすると、外出しない人に比べ要介護状態に陥るリスクが下がります。市では高齢者の外出を促し、人と交流する機会をつくるため、2005年から「かなちゃん手形」の購入費を助成しています。手形を使うと、神奈川中央交通の一般路線バスが1回100円（現金のみ）で乗車できます。

大します。

1年券の自己負担額が半分に

6月下旬から販売する1年券は、購入費助成額を3000円増額し、自己負担額3000円で購入できるようになりました。対象の70歳以上の方には、6月上旬に案内通知を郵送します。同封の助成券と必要書類を持ち会場で手続きをすると、即日交付されます（左欄参照）。

生き生きと暮らせるまちに

市では他にも、高齢者の外出促進につながるサービスを提供しています。昨年12月には高齢者タクシー助成を拡大。今年度からは1枚400円のチケットの交付を12枚から48枚に増やしました。さらに、65歳以上の方には、市内の温泉・入浴施設などをお得に利用できる「シルバーチケット」を交付。

昨年、6カ月券の購入費助成額を1500円増額すると、その利用者が2倍近く増加。さらに外出しやすくなるよう、6月から1年券の助成費用も拡大

かなちゃん手形を利用している日浦千代美さん（及川）は「助成金額拡大はとてもありがたい。週3・4回バス

を利用して、少しの移動でも気軽に使えるので助かっている。より多くの高齢者に利用してもらえば」と笑顔を見せます。



厚木でスポーツを スポーツ合宿 誘致事業 補助金



詳細はこちら

市内宿泊施設に泊まり、市内のスポーツ施設などを利用して合宿などをする市外のスポーツ団体や個人に補助金を交付します。

《対象》

市外に住民登録と活動拠点がある個人・団体

《補助額》

1泊1人2000円（上限：個人1万円・団体20万円）

《対象条件》

個人：公共団体が主催する大会への参加、市内宿泊施設に宿泊

団体：市内スポーツ施設などを使用、市内宿泊施設に宿泊

《申請方法》

合宿前：事前確認書を提出

合宿後：宿泊名簿やホテルの領収書などを提出

スポーツの聖地へ

市HPでスポーツ情報を発信

スポーツに親しめるよう、市内で開催されるイベントや大会などの情報を発信しています。



詳細はこちら

☎スポーツ魅力創造課 ☎225-2531



助成費用の拡大で気軽に外出できると好評

かなちゃん手形で出かけよう

■購入費助成額を拡大

4月1日現在市内在住で2024年度に70歳以上の方を対象に、6～8月に販売する1年券（1万800円）の利用助成を拡充します。

拡大後 自己負担額**3000**円（7800円助成）

■申請日程・会場

対象者には6月上旬に通知を送付。助成券を持ち、次の会場へ。

6月18日 依知北・睦合北公民館

19日 南毛利・玉川公民館

20日 睦合南・相川公民館

21日 小鮎公民館・上荻野分館

24日 緑ヶ丘・睦合西公民館

25日 荻野公民館

26日 森の里・依知南公民館

27日 老人福祉センター寿荘

28日 老人福祉センター寿荘・愛甲公民館

29日 老人福祉センター寿荘

7月1日～8月31日

神奈中本厚木駅前サービスセンター

●タクシー助成 かなちゃん手形助成などと選択制

会場ではタクシー助成も申請できます。

※かなちゃん手形と重複不可

《対象》4月1日現在市内在住で24年度に①85歳以上②70～84歳で自動車運転免許がない③要介護区分が4・5—のいずれかに該当する方

《内容》1枚400円のチケットを48枚交付

申請方法など
詳細はこちら



☎福祉総合支援課 ☎225-2220

中心市街地の新たなシンボルに

複合施設 実施設計説明会

図書館、市庁舎などの複合施設の建物概要を説明します。

☎市街地整備課 ☎225-2470

日時 7月7日 15～16時

場所 市役所第二庁舎

内容 完了した実施設計の概要説明

対象 市内在住在勤在学の方30人



☎ファクス、Eメールに、〒住所、氏名、電話番号、Eメールアドレスを書き、7月2日（必着）までに市街地整備課 ☎224-4802・☎5000@city.atsugi.kanagawa.jpへ。抽選。



自宅の分電盤に取り付けるだけ

Q Zoom Up

地震による電気火災のリスクを軽減 感震ブレーカーを有償配布

地震などの災害から命や財産を守るには、日頃の備えが大切です。市では8月から、大規模地震による停電が復旧した際などに起こりやすい通電火災のリスクを軽減する「感震ブレーカー」を有償配布します。

最大震度7の揺れを観測した東日本大震災では、家屋の倒壊などに加え多くの火災が発生しました。原因を特定できた108件のうち、6割以上が電気に起因するものでした。市では、火災リスクを軽減するため、地震発生時に揺れを感じし、自動で電気を遮断する感震ブレーカーの有償配布を8月から始めます。

通電を自動で遮断

有償配布する感震ブレーカーは、自宅の分電盤に取り付ける簡易タイプの機器で、震度5強以上の揺れを感じすると、自動的にブレーカーのスイッチを落とし電気を遮断します。地震発生時は、電気機器の転倒や電気コードの断線が起こります。そのまま停電から復旧すると通電火災につながるため、防止には電気の遮断が欠かせません。加えて、自宅にいない時やブレーカーを切って避難する余裕がない場合にも効果的です。市では、設置を促進するため1個500円で配布開始。未設置の方などを対象に、6月から申し込みを受け付けます。取り付けが難しい方

には、有料での設置サービスも実施します（左欄参照）。市内在住の濱田翔太さん（34・妻田）は「地震による火災の多くは電気関係が原因だとは知らなかった。全国的にも大きな地震が発生し、災害への恐怖心は年々増しているので、感震ブレーカーの設置は安心につながる。これを機に日頃の備えを見直したい」と話します。

いざという時に備えて

災害時に自身や家族の命を守るには、食料品の備蓄や非常持ち出し袋の用意、避難行動の事前確認など、日頃の備えが大切です。市では、市民の皆さんの命と暮らしを守るため、自宅での備えに活用できる冊子「防災ポケットブック」の全戸配布や、元日に発生した能登半島地震の教訓を生かした防災備蓄品の充実など、防災・減災対策を進めています。

災害は、いつ起こるか分かりません。一人一人ができることに取り組み、いざという時に備えましょう。

☎危機管理課 ☎25-2190

感震ブレーカーの有償配布

《対象》感震ブレーカー未設置の市内在住の方・団体

《費用》1個500円

《配布時期》8月以降

《配布場所》危機管理課または公民館

※高所作業で設置が困難な方は、市シルバー人材センターによる有償での設置・取り付け対応も可。詳細は市HPに掲載。

☎危機管理課や公民館、市HPにある申請書を直接または郵送で、6月30日（必着）までに危機管理課へ。市HPからも申請可。



詳細はこちら

☎危機管理課 ☎225-2190

浸水被害を防ぐ

河川の氾濫や降雨による浸水被害を防ぐため、対策などの費用の一部を補助します。

■企業などの対策費用

《対象》店舗、事務所、工場、集合住宅（マンション）、テナントビルなど

《補助額》対象経費の3分の1（上限1億円）

《補助条件》災害時に避難施設として提供する協定の締結

☎市HPにある申請書を直接、危機管理課 ☎225-2190へ。審査あり。詳細はこちら



■止水板の設置費用

《対象》住宅、集合住宅（マンション）、店舗、事務所などへの設置・購入費用

《補助額》対象経費の2分の1（上限50万円）

☎工事などの着手前に申請書と必要書類を河川下水道総務課 ☎225-2362へ。審査あり。条件などの詳細は市HPに掲載。



詳細はこちら

家庭での備えを

被害を減らすには日頃からの備えが大切です。

●事前に行動などを確認

オールハザードマップや市HPの3Dデジタルマップで災害リスクを知り、家族との連絡方法や集合場所、避難経路などを確認

●自宅や周辺の点検

雨どいや周辺の側溝の詰まりは、道路の冠水や浸水の原因になるため、小まめに清掃

●地下室などの対策

被害に遭いやすい地下室などがある建物は、浸水しないよう土のうや止水板を準備

楽しく学ぼう

少年少女 消防教育

夏休みに、防災体験を通して災害への意識を高めませんか。

愛TV 6/1～



《日時》7月31日 9～16時

《場所》県消防学校

《内容》消防車や救急車の乗車・放水体験など

《対象》市内在住の小学3年生～中学3年生20人

《費用》無料

☎6月5～19日に直接、予防課へ。先着順。

市消防本部公式

Instagramで情報を発信

イベント情報や隊員たちの訓練、消防署の日常など活動の様子を発信しています。



Instagramはこちら

☎予防課 ☎223-9371



放流用のアユを準備する田辺さん



2月には市外のイベントでアユの塩焼きを提供



トラックで運びホースを使って放流



大きさごとに14個の水槽に振り分ける



餌は水槽ごとに大きさや量を調整



餌を入れた時の反応や泳ぎ方を観察



川に放つ直前のアユ

市内を流れる相模川は昔から多くのアユが遡上し、「鮎川」と呼ばれていました。今も6月になると市内外からアユ漁解禁を待ちわびていた釣り人たちが訪れます。センターは、相模川のアユの個体数を保つため1955年に相模川第二漁業協同組合が設立。2015年から、川の水産資源の維持管理を支援する内水面漁業協同組合連合会が

アユを守るため

春の空の下、三田にある厚木あゆ種苗センター(以下、センター)から涼しげな水の音が聞こえてきます。水車が回る水槽の中では体長10センチほどのアユたちが力強く飛び跳ねています。「今年のアユはよく育っています。これからが楽しみ」。センターの田辺智之さんは、放流に向けて5人の従業員と飼育作業に励んでいます。

より大きく元気なアユを

厚木あゆ種苗センター

田辺 智之さん(36・三田)

丁寧で育てる

アユの生育は、稚魚がセンターに届く1月ごろから始まります。田辺さんたちは毎日4、5回餌をやり、泳ぎ方や食欲などの様子を見ながら与える量や大きさを調整します。水質をきれいに保つための水槽掃除も欠かせません。アユたちが調子を崩さないよう注意を払う田辺さんは「アユが大きく元気に育つ

ため、できることは少ない。だからこそ小さな異変も見逃さないように観察している」と話します。4カ月で約5センチから12、13センチほどに成長したアユは、4月下旬から5月にかけて相模川や中津川へと放流します。「放流するときに一番楽しみ。アユを守る仕事をしていると実感できる」と、川に放たれたアユたちを見守りながら田辺さんは話します。

多くの人に知ってもらおう

センターでは他にも、相模川第二漁業協同組合と一緒に、アユのつかみ取り体験やイベント・売店での販売などに取り組んでいます。同組合の栗原信二代表理事組合長は「イベントなどを通じて厚木のアユに触れることで、多くの人に知ってもらえる」と、地元の人々がアユに親しめる場を提供しています。

「地元の人々が知り、好きになってもらうのもアユを守るために大切なこと」と真剣な表情で話す田辺さん。「厚木といえばアユ。皆さんの生活にもっと身近な魚になってほしい」。厚木のアユを守るため、これからも愛情を注いで育てていきます。

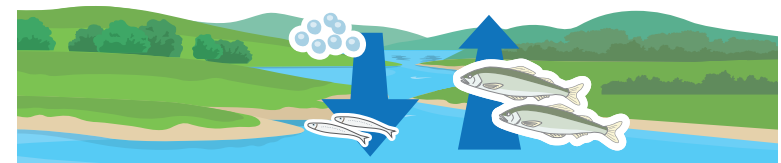
アユの魅力を伝えたい

日本料理店店主

樽井 仁生さん(58・元町)



アユの一生 アユは10～12月に川で生まれ、海へ下ります。3～5月になると川を遡上。コケを食べ成長したアユは10～12月に産卵し一生を終えます。



相模川のアユを守る 相模川を遡上する天然のアユは環境の変化により減少しています。資源豊かな川の環境を保つため、定期的に放流しています。

内水面漁業協同組合連合会 県内の各漁業組合が希望するアユの放流量や場所を取りまとめる

厚木あゆ種苗センター 依頼 河口で採取または人工ふ化させたアユを稚魚から育成

放流 県内の河川 主に4月下旬～5月に相模川や多摩川などに放流

提供 飲食店・イベントなど アユのつかみ取りや塩焼きの提供など

市内で楽しめるアユ

■釣る
6月1日から相模川でのアユ釣りが解禁されます。
☎農業政策課 ☎225-2801
《期間》6月1日～10月14日
《漁法》ルアー釣り(一部区域のみ)、コロガシ・友釣り
☎釣具店や市まるごとショップ「あつまる」で販売する遊漁券を購入
詳細はこちら

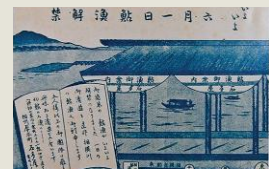
■味わう
市まるごとショップあつまるで甘露煮などを販売。
6～10月頃には市内の飲食店約7店でアユ料理が食べられます。詳細は市観光協会HPに掲載。
☎商業観光課 ☎225-2820
厚木あゆ種苗センターでは加えて活魚も販売
詳細はこちら

アユと共にある厚木
あつぎ郷土博物館 学芸員 大野 一郎さん(63)

厚木とアユのつながりは古く、9世紀ごろまでさかのぼります。相模川は昔から「鮎川」と呼ばれていて、現在の厚木を含めた旧「愛甲」郡の名前は「アユカハ」という言葉が由来だといわれています。江戸時代には幕府への献上品として生きたアユが納められていました。明治時代以降になると、都心から来た人たちがアユ漁と料理を楽しむ「遊船会」や釣りをすることで、アユは観光資源として厚木を支える産業の一つになっていきました。厚木とアユは切っても切れない深いつながりがあります。

厚木とアユの歴史を展示

あつぎ郷土博物館ではアユ漁で使われていた道具や資料を展示しています。
☎あつぎ郷土博物館 ☎225-2515



◀アユ漁の解禁を知らせるチラシ／「広告メディアが語る“商い”と地域の変遷」より



◀観光客を乗せ、アユ漁や料理を楽しむ屋形船／市文化財協会所蔵



◀アユ釣りの解禁日には臨時電車が運行。釣り客でにぎわう「本厚木駅と厚木駅—小田急、相模線とあつぎ—」より



徳島県で生まれ育ち、料理人を目指して大阪の専門学校に進んだ樽井さん。卒業後は日本料理の文化や歴史をさらに学ぶため、京都の老舗料亭で5年間修業を積みしました。修行した店では夏に旬の食材として近くの川で取れたアユを塩焼きにしていた。鮮度や焼き加減など、お

アユとの縁

樽井さんのお店では、6月から10月まで看板メニューの一つとして厚木で育ったアユの塩焼きを提供しています。「生きたアユを使っているので取れる時期しか出していない」。樽井さんは真剣な表情で話します。

開店前の日本料理店の厨房で、真剣なまなざしで静かに包丁を動かしているのは店主の樽井仁生さん。食材の良さを引き出せるよう、丁寧に仕込みをし

ます。樽井さんのお店では、6月から10月まで看板メニューの一つとして厚木で育ったアユの塩焼きを提供しています。「生きたアユを使っているので取れる時期しか出していない」。樽井さんは真剣な表情で話します。

おいしく届けるために

樽井さんはアユが仕入れられる時期になると、毎日8時ごろにセンターへ。その日の分だけ購入して店に運びます。店内の水槽には、環境の変化に敏感なアユにストレスをかけないた

いしくアユを調理するための技を学んだ樽井さん。「生きた状態から調理すると、外はサクサク、中はフワフワに焼きあがる。ヒレも立ち見た目もきれいに仕上がる」と、新鮮なアユだからこそ味わえる魅力を話します。

樽井さんが市内で働き始めたのは26歳の時。結婚を機に厚木に引っ越したのがきっかけでした。料理を出すからにはその土地のおいしいものを食べてもらいたいと考えていた樽井さん。お客さんから「相模川でアユが取れるが、市内で食べられる場所が少ない」という声を聞き「せっかくなのでアユが取れるのだから、料理に出さなければいけない」と約30年間、厚木のアユを提供し続けています。



店で提供しているアユの塩焼き

め、センターと同じ水温に調整した水を入れて鮮度を保ちます。「センターの人など一生懸命育てる人たちの思いを知っているからこそ、育ったアユの味を自分の手で台無しにしたくない」と手間を惜しみません。毎年、市外からアユを求めて店を訪れるお客さんもいます。「今年もアユの季節がやってきた。多くの人に味わってほしい」と笑顔で話す樽井さんは、今日もお客さんに料理を振る舞うため、厨房に向かいます。

子どもたちの健やかな成長を願って

地域に伝わるせんみ^{だこ}風揚げに80人が参加



午前中は12人がたこ作りを体験

厚木周辺に伝わる「せんみ風」を揚げるイベントが、玉川地区で開かれました。親子連れなど80人がたこ揚げを楽しみながら、地域の伝統文化に触れました。

イベントは、玉川地区文化振興会が玉川せんみ風保存会の協力を得て開催し21回目。セミをかたどったたこを揚げる伝統文化を通して物作りを体験でき、地域住民との交流の場にもなっています。参加した子どもたちは、たこを少しでも高く揚げようと、繰り返す糸を小まめに調節しながら風をとらえていました。

保存会の前場政行さん（85・七沢）は「天気がよくて風もあり、きれいに揚がってくれた。今後もせんみ風を伝えていきたい」と話しました。

救援物資の受け入れ・保管体制を強化

災害時の救援物資の保管などに関する協定を市内で初めて締結

大規模な災害の発生に備え、横浜低温流通株式会社と協定を結びました。災害発生時に他の自治体などから救援物資が寄せられた際、市内にある同社の施設で受け入れ・仕分け・保管・管理・出庫ができるようになります。



市と同社は、災害時の非常食の調達などに関する協定も締結

協定は、能登半島地震などの状況を踏まえ同社から締結の申し出があり実現。締結式で伊澤進代表取締役会長は「災害時はスピード感のある対応が求められる。過去の大きな災害時に支援してきた経験を市のために役立てたい」とあいさつ。山口市長は「いつ起きるか分からない災害に備えて、市民の皆さんの命や暮らしを守るため、引き続き力添えをいただきたい」と述べました。



花と緑あふれるまちへ

「緑のまつり」を厚木中央公園で開催

花や緑に親しむイベント「緑のまつり」を、厚木中央公園で開催しました。多くの家族連れなどが訪れ、物作り教室や市の花・サツキの鑑賞などを楽しみました。



市内産の花を使った花壇が会場を彩った

イベントは、市と農業協同組合、厚木商工会議所などで行う実行委員会が主催。花や緑がもたらす潤いと安らぎを多くの人に感じてもらい、緑あふれるまちにするため、1973年に始まり47回目を迎えました。会場では、環境に配慮した段ボール財布・木のお花・みつろうラップ作りができる体験コーナーの他、サツキの展示会や苗の無料配布なども実施しました。

夫婦で来場した山口信博さん（75・戸室）は「久しぶりにこのイベントに来て、花の苗を買った。家で育てるのが楽しみ」と笑顔を見せました。

おもちゃ作りなどの工作を通して親子の絆を深める「青少年フェスティバル」を、アミューあつぎで開催しました。親子連れなど約1000人が、竹とんぼやけん玉作りを楽しみました。

イベントは、市と青少年指導員連絡協議会が主体となり実施。子どもの未来を考える「あつぎ子ども月間」に併せ、毎年開催しています。会場では、青少年指導員やジュニアリーダーが、缶バッジや紙飛行機など11店の工作ブースを出展。来場者たちは興味のあるブースに立ち寄り、工作を楽しみました。おもちゃが完成すると子どもたちは笑顔を見せ、楽しそうに遊ぶ姿が見られました。

参加した安齊宏美さん（36・飯山）は「家でおもちゃ作りするのは大変なのでこうしたイベントはうれしい」と話しました。



作ったおもちゃで遊ぶ親子



厚木・秦野・伊勢原市、愛川町、清川村の5市町村が観光振興で連携している「県央やまなみ地域」の魅力を毎月テーマを変えて紹介します。紙面では伝えきれない5市町村の観光にまつわるコラムを、ニュースサイトでも紹介します。

第1回 地域を伝える「お祭り」

5市町村では、伝統や文化などに基つき特色ある祭りを開催しています。それぞれの祭りに参加し、違いを楽しんでみてはいかがでしょうか。

《主な祭り》

厚木市：あつぎ鮎まつり（8月）

秦野市：秦野たばこ祭（9月）

伊勢原市：伊勢原観光道灌まつり（10月）

愛川町：愛川町勤労祭野外フェスティバル（8月）

清川村：青龍祭（8月）



「秦野たばこ祭」のジャンボ火起こし綱引きコンテスト

ニュースサイトでは、祭りの内容を詳しく紹介▶

商業観光課 ☎225-2820



相模川ローズガーデンで満開のバラを撮影

大山が山頂まで新緑に染まり、市内の至る所で自然の輝きを感じられる季節になりました。5月には、47回目を迎えた緑のまつりや相模川ローズガーデンフェスティバルが開かれ、初夏のすがすがしい陽気の中で、多くの市民の皆さんが花や緑を満喫されていました。

厚木市は、山や川、里山などが多く残り、そこに約7400種に上る多様な動植物が息づいています。市では、こうした環境を未来に引き継ぐため、3月に「生物多様性あつぎ戦略」を11年ぶりに改訂。そして、戦略に基づき自然の保全・回復に取り組む決意を表す「ネイチャーポジティブ宣言」を、県内の自治体として初めて発表しました。戦略で目指す将来像は「自然のめぐみを育むまちあつぎ」です。厚木の財産である自然の恩恵を将来にわたって受けられるよう、市民の皆さんが自然に触れ合える機会を作り、保全や管理に取り組んでまいります。6月にはいよいよ、相模川などでのアユ釣りが解禁されます。今年もたくさんのアユたちが、相模湾から厚木へと元気に遡上（そりあが）ってきているようです。おいしいアユの塩焼きが食べられるのも、厚木の豊かな自然があつてこそ。みんなでこの豊かな環境を未来につないでいきましょう。

の財産である自然の恩恵を将来にわたって受けられるよう、市民の皆さんが自然に触れ合える機会を作り、保全や管理に取り組んでまいります。

タウンガイド

6月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

7月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

☎=申し込み ☎=問い合わせ ☎=電話番号
 FAX=ファクス番号 ☎=Eメール HP=ホームページ
 ☎=講座予約システム(インターネットで申し込み可)
 愛TV 6/1~ =市広報番組あつぎ愛テレビ
 市役所への郵便物は「〒243-8511〇〇課」で届きます。

あつぎのしゃしん。



「赤いじゅうたん」

#5月10日撮影
 #あつぎ飯山花の里
 #ポピー
 #niceatsugi
 市公式インスタ
 グラムで公開中



本厚木ミロードとの文化芸術連携協定事業「あつぎにぎわい座」

心も、体も美しく リラックスヨガ教室

ヨガに興味のある方、始めてみたい方、この機会に講師の指導を受けながら楽しく体験してみませんか。 ☎文化魅力創造課 ☎225-2508

日時 6月22日①10時30分～11時30分
 ②13時30分～、14時30分～(各回40分)

場所 本厚木ミロード・ミロにわ

内容(対象) ①マットヨガ(20～40歳代20人) ※マットをお持ちください
 ②イスヨガ(定員25人)

費用 ①100円(予約料) ②無料

☎①6月1日から市HPにある専用フォームへ。②不要。先着順。



詳細はこちら

応急手当普通救命講習会 (小児・乳児対象)

6月24日、9～12時。消防本部。応急手当の重要性、自動体外式除細動器(AED)の取り扱いなど。市内在住・在勤・在学の中・高・大学生以上30人。☎6月3～11日に救急救命課 ☎223-9365へ。抽選。 ☎

にぎわい美化清掃

金曜、15時～15時30分(雨天中止)。あつぎセーフティーステーション番屋集合。本厚木駅周辺のゴミを拾う。参加者にはまちのコイン「アユモ」を進呈。☎不要。☎商業観光課 ☎225-2840。

子育てリフレッシュ講座

7月23日、10～12時。厚木ガスリセ。コーヒーの入れ方教室。市内在住で未就学児の保護者20人(託児あり。3カ月以上の子ども20人)。500円。☎電話または子育て支援

センター、市HPにある申込書を、郵送、ファクス、Eメールで6月17～28日(必着)に子育て支援センター ☎225-2922・FAX223-1684・☎kosodate@city.atsugi.kanagawa.jpへ。抽選。 ☎

国民健康保険料の納入通知書 を6月中旬に発送

会社などの健康保険に加入した方は、国民健康保険の脱退手続きをしてください。☎国保年金課 ☎225-2123。

6月1日は「景観の日」

色彩に関するルールを守り、より良い景観を作りましょう。☎都市計画課 ☎225-2401。

生産緑地地区の指定申し出を受け付け

《事前相談期間》6月3～14日(土・日曜を除く)《申出期間》6月17～21日《場所》都市計画課《対象》

幅員4m以上の道路に接し、防災協力農地に登録見込みなどの指定要件を満たす市街化区域内の一団で、300平方m以上の農地(一団での指定の場合、1カ所の最低面積は100平方m)。☎都市計画課 ☎225-2401。

介護保険料の改定

介護需要の増加や給付費の増大などに対応するため2024～26年度の介護保険料を改定しました。収入などで保険料を決定。年金受給額が年18万円以上の方(特別徴収)＝年金の定期支払い(年6回)の際に差し引き(老齢福祉年金を除く)。年金受給額が年18万円未満

の方(普通徴収)＝納付書や口座振替で納付。年度途中で65歳になった方や転入した場合は、特別徴収に切り替わるまで普通徴収。納入通知書は6月中旬に発送。特別な事情で支払いが困難な方は、減免などの措置を受けられる場合があります。☎介護福祉課 ☎225-2393。

中学校用教科書展示会

①6月5～11日、17～21日。9時30分～17時＝あつぎ市民交流プラザ②6月13～15日、9時30分～17時＝荻野運動公園③6月5～21日、9～19時＝中央図書館。来年度から市立中学校で使う教科書候補の展示。☎不要。☎教育指導課 ☎225-2660。

外出時は特に注意

光化学スモッグ

光化学スモッグが発生すると、目や喉、呼吸器などに悪影響を与えます。発生情報を把握し、被害を最小限にしましょう。

☎生活環境課 ☎225-2752 発生時は公共施設に看板を設置

◆発生したら

- ・屋外での激しい運動をやめる
- ・体調が悪いときは屋内で休む
- ・風の向きを考え窓を閉める

◆発生情報を知る方法

- ・県テレホンサービス ☎050-5306-2687
- ・公共施設の看板や防災行政無線
- ・あつぎメールマガジンに登録



商品券でお得に買い物を 商店街プレミアム 商品券を販売

厚木なかちょう大通り商店街や、厚木一番街商店街の店舗で使える商品券6500円分の商品券を5000円で販売します。

☎商業観光課 ☎225-2840

販売日 6月8日 10～15時

場所 アミューあつぎ

価格 1セット5000円

※6500円分の商品券(500円×13枚)

販売上限 1人6セット

販売数 3210セット

使用期限 7月15日まで

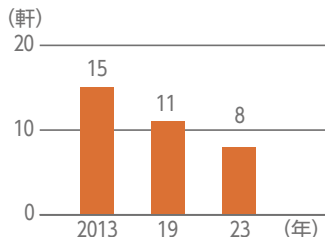
☎不要。先着順。



詳細はこちら



市内酪農家の軒数



牛乳を飲んで酪農家を応援しよう

6月は牛乳月間

市内酪農家の軒数は10年で半数近く減少しています。牛乳や乳製品は私たちの食卓に欠かせません。牛乳を取り入れて酪農家を応援しましょう。

■市民朝市で酪農家応援キャンペーン

《日 時》 6月16日 6時～

《場 所》 文化会館駐車場

《内 容》 乳製品の販売、啓発物品の配布



詳細はこちら



☎農業政策課 ☎225-2801

ホット

インターネットモニターからの意見を紹介



インターネットモニター募集中

厚木市 インターネットモニター 検索

☎広報シティプロモーション課 ☎225-2043

5月1日号「広報あつぎ」を読んで

- ◆スポーツなじみDAYに子どもを連れて行きたい／30代女性
- ◆家電の買い換えでCO2削減に取り組みたい／40代男性
- ◆3Dデジタルマップで自宅の災害リスクを確認し自分ごととして意識できた／50代女性
- ◆厚木の良い所を再発見できた／70代以上男性
- ◆子どもが楽しめる消防フェアに今年も行きたい／40代女性
- ◆散歩が好きなので自然歳時記をよく参考になっている／50代男性

編集後記

話を聞く中で、厚木がアユと深いつながりを保ってきたのは「アユを守りたい、おいしさを知ってほしい」という強い思いがあったからだと感じました。「厚木といえばアユ」と認識されているのは当たり前のことではないのだと思います。この時期、川に行くと流れに逆らって、懸命に上流を目指すアユが見えます。今年も無事に上りきって大きく育ってほしいです／野口



オオシオカラトンボ

6月は環境月間

生物の命を守ろう



コアジサシ



ゴキツナサシガメ

現在、市内には動物が5701種、植物が1766種生息しているといわれています。生き物や自然を守るため、皆さんもできることから始めてみませんか。

☎環境政策課 ☎225-2749

愛TV 6/1~

■生物多様性とは？

多くの生物が豊かな個性を持ち、つながりを持つこと

■生物多様性が失われると？

市内では動植物311種が絶滅の恐れがあるといわれています。私たちの生活は多くの生き物や植物に支えられていて、多様性が失われると、食料や衣服、燃料がなくなったり、植物が育たなくなったりするなどの影響があります。



トゲアリ



ホトケドジョウ



ニホンアマガエル



キアゲハの幼虫



ムラサキシジミ



ハラビロカマキリ




マクガタテントウ

生物多様性あつぎ戦略2024-2030


みんなの生物多様性

厚木にすむ生物や環境保全に向けた取り組みなどを、子どもから大人まで分かりやすくまとめました。内容は市HPで見られます。

☎環境政策課 ☎225-2749



みんなの生物多様性



HPはこちら

生物多様性を学びたい方にお勧め

環境月間の関連図書を展示

環境月間に併せて、生物や環境問題をテーマにした本を集めて展示します。

☎中央図書館 ☎223-0033

期間 6月1~29日 場所 中央図書館

水分量を減らして生ごみ削減

生ごみ処理機の購入費を補助



生ごみの排出量を減らすため、処理機の購入・設置費の一部を補助します。

☎環境事業課 ☎225-2793

《補助額》


- 個人…上限2万円(本体価格の5分の4)
※1世帯2台
- 事業者…上限200万円(設置費用の3分の2)
※1事業所1台

対象機器などの詳細は市HPに掲載▶



身近な自然に関心を持って

NPO法人県自然保護協会理事長
青砥 航次さん(80・林)



私たちは自然の恩恵を受けながら暮らしています。森林や水田は雨を蓄えて土砂災害や洪水などを防ぎ、カエルの鳴き声やトンボの群れは、季節のうつろいを教えてくれます。自然が失われ絶滅した生物が増えると、これらの恩恵も失われます。生活を便利で快適にすることと自然環境の保全は表裏一体の関係なので、共存する方法をみんなで考える必要があります。


厚木は自然が豊かで希少な生物もたくさんいます。身近な自然や生物に関心を持ち、何ができるかを考えてみてはいかがでしょうか。

自然歳時記

●ガマズミ●

ガマズミ科

ガマズミの花は、日当たりの良い林縁で見かける。白色の小さな花が、たくさん集まって咲き豪華で昆虫たちが集まる。秋に実る赤い実は、鳥たちの好物でおいしい／七沢で見つけた。 写真・文／吉田文雄



ガマズミは、冬の間は葉を落とすところに生えているのか全く分からない。春になると6センチほどの葉を付け、小さな白い花を集めた一房一房は豪華で見つけやすい。

白い花から発する虫にとって甘い香りは遠くにいても漂い、近づくとも香りに誘われたハナアブやミ

ツバチの仲間、コアオハナムグリなどが楽しげに飛び回っていた。

青空を背景に無心に飛翔する虫たちは、ガマズミの花が咲くのを待ちかねていたのだろう。うれしそうな虫たちを見ていると、花のありがたさが分かる。いつまでもこんな世界が続いてほしいと願う。

厚木市の人口
(5月1日現在)

世帯数 10万5802世帯(前月比271世帯増)

人  22万3899人(前月比193人増) 男11万5348人・女10万8551人